

**留学先国名** : カナダ

**留学先学校名** : カナディアン・ツーリズム大学

**留学期間** : 平成 27 年 4 月 5 日 ~ 平成 28 年 2 月 29 日

私は 4 月 5 日にバンクーバーに到着し、そこでの留學生活が始まりました。私の留學の目的は、カナダのツーリズムカレッジに通い、観光学について学び、実際に働いて経験を得るというものでした。そして、日本、特に 20 年住んできた、愛する大阪の観光業発展に貢献したいと思っていました。まず、ツーリズムカレッジに通うため、ある程度の英語レベルに達することが必要だったため、カレッジに指定された語学学校へ 2 ヶ月間通い、指定されたレベル 7 へと自分の英語を上げるため必死に勉強しました。その甲斐もあり、カレッジに進むことができ 6 月から、ツーリズムカレッジでの生活が始まりました。そこでの授業は現地カナダ人と一緒に勉強することを意味し、英語の壁に何度もくじけそうになりました。しかし、そこで英語力のみならず、プレゼンテーション能力も伸ばすことができました。また、授業内容は大変面白く、興味深いものでした。社会がどんどんグローバルになっており、国境を越える人の移動はどんどん活発化しています。その中、大阪の観光業に目を向けたとき、訪日外国人客にできるサービスがもっとあるのではないかと、もっと違った方法で大阪を世界に発信する方法があるのではないかと疑問が浮かび上がってきました。そして、9 月にカレッジを卒業し、12 月から 1 月の 2 ヶ月間、RAMADA INN & SUITES VANCOUVER というホテルにてフロントデスクのインターンシップを体験しました。そこでの仕事は言葉にできないほどやりがいのあるものでした。同僚全員がカナダ人、まだお客さんのほとんども英語話者の中の仕事はかなり大変なものでした。そのとき、すでにバンクーバーに 8 か月住んでおり、日常生活には支障がない英語力を得ていましたし、TOEIC も 865 点をマークしていましたので、働き始める以前は、英語は障害にならないだろうと考えていました。しかし働き始めると現実とは全く違っていました。例えば、お客さんがクレームを言いに来られると、もちろんそれに対応しなければなりません。日本語では適切に対応できるかもしれないところも、英語ではうまく対応できなかつたりします。また、もっとも苦労したものは電話対応でした。相手の表情が見れないうえ、相手が何を質問するのか予想することもできません。また、たまに声はクリアではなく、それぞれのアクセントもあります。何度もの相手が何を言っているのかわからず、そのまま同僚に電話を任せました。こういった風に、初めはたくさんの苦労がありました。しかし、インターン終わりにはほとんどミスなく仕事をこなしている自分がいました。これは、今では自分自身の大きな自信です。

また、私は学校、インターンだけではなく、アルバイトも 2 つしていました。ハンバーガーショップとカフェです。どちらもカナディアンの同僚に恵まれ、英語環境で働くことを大いに楽しみました。それから、もう一つ私がカナダの生活で大切だったものがあります。それはダウンタウンの無料の英会話カフェです。私は暇があればそこへ通いつめました。そこは、英語を学びたい留学生と英語を教えたいカナダ人でいつも賑わっていました。私はそこで数えきれないほどの忘れられない友達と出会うことができました。カフェで、学校などの日常のことから、将来のことまで色んなことを友達と語り合いました。英会話カフェが終わった後は、みんなでご飯に行

ったり、映画を見に行ったりしました。例えば、カナダ人の友達は英語が流暢に話せない私に飽きることなく、何度も何度も遊びに誘ってくれました。そうやって、カナダの文化を学び、人を知りました。その英語カフェで出会った友達たちには感謝してもきれません。彼らのおかげで私はカナダでのたくさんのかけがえのない思い出を作ることができました。

留学で得たことは計り知れないほどあります。英語力はもちろんのこと、日本では知れないことと経験できないことをたくさん経験できました。例えば、バンクーバーは移民によって構成された町です。カナダに生まれたとしても、両親または祖父母が他の国からの移民ということがほとんどです。バンクーバーの人たちは人種も違い宗教も違う。それぞれが持つ文化が違ううえ、考え方もそれぞれ違っています。しかし、人々はお互いの文化、宗教諸々を尊重し合っています。日本という、単一民族で構成され、日本文化、日本の歴史を共有している社会で生まれ育った自分には、バンクーバーという町は非常に興味深い町で、自分の知らない世界を知ることができました。

これから留学する方々は、場所や自分が何を学びたいか等悩むことがたくさんあると思いますが、悩みに悩みぬいてください。悩んだ結果、選び抜いた留学先ではきっととんでもなく楽しい留学生活が待っていることと思います。私の留學生活は、一生忘れられることのできない時間だったと誇りに思い、これからの人生に生かしていきたいと心に思います。